

## 令和5年度 学校評価 自己評価書（前期）

## 1 学校の重点目標

- 自ら学び、考え、生かすことのできる子供を育てるために、学習指導の改善と確かな学力を定着させることができる。（ICTの効果的な活用、指導法の改善、家庭学習の習慣化、教員の資質向上）
- 思いやりのある心豊かで素直な子供を育てるために、心に届く生徒指導を充実させ、豊かな心を育てることができる。（いじめ・不登校・問題行動等の未然防止、早期発見・チームでの対応）
- 健康でたくましく生きる子供を育てるために、保健・安全指導を徹底するとともに、運動に取り組む中で体力・気力を充実させることができる。（一人一日一運動、感染症予防、食育に関する指導）

## 2 課題と改善策（A：80%以上達成 B：60～80%達成 C：60%以下）

	評価項目	職員	評価結果と改善方策
重点項目	1 自らの考えを持つ学習指導の徹底	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習への取組については、タブレット活用が意欲付けにつながっている。今後も研修により効果的な活用を進めていきたい。また、タブレットの家庭への持ち帰りも進めたい。</li> <li>・ 読書グループとの連携で成果を上げた。今後は、個人差解消のための手立てが必要である。</li> </ul>
	2 授業でのタブレットの有効活用	A	
	3 家庭学習（学年×10分+20分）	B	
	4 読書量年間100冊以上	B	
生徒指導	1 全職員一体となった生徒指導態勢の確立	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 毎月1回の情報交換タイムで、共通理解を深めた。全児童と職員で4つの「あ」に取り組んだ。</li> <li>・ いじめアンケートや教育相談で早期対応ができた。</li> <li>・ 個人差が大きい。家庭との連携強化を図りたい。</li> <li>・ SCなど多くの専門家と連携を図り対応できた。解消に向けて今後も継続して取り組みたい。</li> </ul>
	2 いじめ防止基本方針の推進	A	
	3 基本的な生活習慣の確立	B	
	4 家庭、地域社会、関係機関・団体等との連携強化・協働	A	
学力向上	1 学びの構え指導の徹底	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学力向上については、学びの構えに個人差が見られるため、個別の指導を徹底する必要がある。教科に対する意欲も高い。学び方の力が発揮できる学習の進め方を今後も工夫していきたい。</li> <li>・ PTAの目標を実践・定着させる工夫を継続したい。</li> </ul>
	2 基礎・基本の確実な定着	B	
	3 主体的・対話的で深い学びとなる指導法の工夫改善	B	
	4 家庭学習時間の習慣化と見届け	B	
心の教育	1 人権教育の推進	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 豊かな心は育ちつつある。指導が必要な子供には個別に関わってきた。今後も根気強く指導を継続したい。学校楽しい一とを有効活用し実態把握に努めた。</li> <li>・ 花作りをとおして優しさや思いやりについて学ぶ機会を持った。「あいさつ先手」を意識する子供が増えてきた。</li> </ul>
	2 道徳教育の充実	A	
	3 学校楽しい一との分析・活用	A	
	4 子供と共につくる「花いっぱい運動」「あいさつ先手運動」の推進	B	
体力向上	1 「一人一日一運動」の推進	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 休み時間などに、進んで運動する子供の姿が見られた。チャレンジ鹿児島等へも積極的に取り組んでいる。交通安全指導については徹底して行えた。</li> <li>・ 感染症予防のための取組を全校で実施できた。</li> </ul>
	2 チャレンジかごしまへの挑戦	A	
	3 交通安全指導の徹底	A	
	4 保健指導の充実	A	
教育環境	1 一学校一改革「そろえる」の推進	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 靴やトイレのスリッパなどそろえる子供が増えてきている。今後も継続して取り組んでいきたい。</li> <li>・ ISO活動へは委員会等で参加し、活動を深めていた。全校に広げる工夫が必要である。</li> </ul>
	2 ISO活動への参加	A	
	3 教室・廊下等の教育環境の充実	A	

## 3 2学期に向けての取組

- 学力向上に向けては、タブレット等も効果的に活用しながら現在実施している授業改善をさらに継続していく。また、職員研修の時間を有効活用し、共通の取組を強化できるようにする。

- コミュニティ・スクールとして、地域やP T A，外部団体等との連携を密にし，チーム学校としての取組をさらに充実させていく。